

大豆栽培における難防除雑草の体系処理

県北農林事務所農業振興普及部

1. 実証内容

帰化アサガオ類が年々増加する大豆ほ場において、県病虫害防除指針に新規に採用された除草剤の体系処理を実施し、その現地適応性について実証した。

2. 実証方法

- (1) 実証ほ場 福島市松川町
- (2) 区の設定 土壌処理剤と茎葉処理剤の組み合わせと処理時期は表1のとおりとした。
- (3) 播種日 6/13 (播種量 5kg/10a)
- (4) 品種 タチナガハ
- (5) 調査項目 各生育ステージ毎の生育、収量及び雑草発生状況

表1 処理区の設定

区名	除草剤名	処理方法	処理時期
体系1	フルミオWDG	土壌処理	6/17(播種+4日)
	アタックショット乳剤	茎葉処理	7/5(播種+22日)
体系2	フルミオWDG	土壌処理	6/17(播種+4日)
	大豆バサグラン液剤	茎葉処理	7/5(播種+22日)
対照区	エコトップ乳剤	土壌処理	6/17(播種+4日)
	大豆バサグラン液剤	茎葉処理	7/5(播種+22日)

3. 実証結果

- (1) 生育
体系1、2区では、出芽後の大豆に縮葉や黒斑などが確認されたが、3葉以降の上位葉への発生はみられなかった。
開花期の生育は、体系1、2区ともに対照区並の生育であった(表2)。
成熟期の生育は慣行区に比べ、体系1、2区とも主茎長が長く、主茎節数が多かった。また、同様に莢数も対照区に比べ、体系1、2区で多い傾向がみられた(表3)。

表2 開花期の生育 (7月19日)

区名	草丈 (cm)	葉数
体系1	44.4	6.2
体系2	51.0	7.0
対照	43.7	6.8

表3 成熟期の生育

区名	主茎長 (cm)	主茎節数	分枝数	莢数 (個)
体系1	51.9 a	16.0 a	4.6 ab	44.2
体系2	48.4 a	16.2 a	4.0 a	49.2 n. s.
対照	41.5 b	14.3 b	3.1 b	39.6

※アルファベット異符号間には1%水準で有意差あり

- (2) 収量
大豆の収量は、7.9mm 篩目 (大粒) では体系1区が最も多く、次いで対照区、体系2区の順に多かった(表4)。JAによる等級検査の結果は全区でマメシクイガ等の虫害により特定加工用 (合格) が多かった。

表4 単収 (kg/10a)

区名	7.9mm 以上	7.3mm 以上	7.3mm 未満
体系1	103.6	212.5	19.6
体系2	76.8	175.0	23.2
対照	101.8	151.8	10.7

※篩目 7.9mm : 大粒、7.3mm : 中粒

- (3) 雑草の発生状況

対照区のアサガオ類は処理直後に一時生育停止したが、その後生育、結実が確認された(写真1)。一方で体系1、2区の体系処理ではアサガオ類が枯死したが、一部アレチウリが残存した。



写真1
対照区でのアサガオ類

4. まとめ

フルミオWDG とアタックショット乳剤の体系処理による除草効果は高く、収量も確保された。帰化アサガオ類が多いほ場での防除対策として普及を図る。